

平成 17 年度総会 会長挨拶

本日は、あいにくの雨模様ではございますが、宮城県から障害福祉課相原課長様、仙台市から障害企画課長船山課長様、宮城県議会から石橋副議長様はじめ、多くのご来賓をお迎えいたし、盛大に定期総会が開催できますことに厚く御礼申し上げます。

多くのご来賓の皆様に対して総会参加会員が少なく恐縮いたしております。毎年言い訳がましくお断り申しておることではございますが、重度の障害者を抱えている在宅の会員や高齢化の進んでおる保護者につきましてはなかなか外出ができませんし、また、通学児や通園者を抱えていらっしゃる親御さんはこの時間帯にはまだ通学通園の影響で会場に集まることができません。子供の様態が急にダウンすることもよくあることではございます。おいおい駆けつけていただけたらと思っております。子供あつての守る会でございますので、子供の都合を優先させていただいておりますことにまずもって御理解賜りたいと存じます。

さて、昨年度は、支援費制度の検証と国立病院の独立行政法人化による療育内容の変化についての検証の年と考えており、行事も例年通りの計画を立てて実行いたしてまいりました。ところが、10月に厚生労働省からグランドデザイン案の公表があり、そちらにも眼を向け始めると間もなく、障害者自立支援法案の閣議決定・国会提出と慌しい、しかも障害者福祉に対する大激変の年となってしまいました。

当会でも、障害者自立支援法案の内容の検討や緊急の研修会を開催し、例年にも増して忙しい年度末になってしまいました。障害者自立支援法案につきましては、現在も国会審議中であり、どう変わっていくのか目を離せない状況ですので、本日は宮城県保健福祉部障害福祉課課長補佐・知的障害福祉班長の佐藤秀樹様をお迎えいたし、総会終了後に「平成 17 年度宮城県の障害者福祉施策について」の研修会をお願いいたしておりますので、最新の情報などもお知らせいただけるのではないかと期待いたしております。

今回の障害者自立支援法案も、三障害統合という画期的な試みを取り入れましたが、残念ながら障害の様態によっていろいろあるニーズに的確に応えられない制度になってしまうのではないかと心配しております。また、折角、障害者が一人の人間として人格を持てるようになって来た環境を以前のように障害者は扶養義務者と一体になって世帯で支えていくレベルに戻るよ

うな気もしております。また、利用料の割自己負担は単なる利用抑制効果を狙ったものだとなれば心淋しい限りです。

更に、入所入園中の子供たちが、厳格な障害者区分によって施設換えをされてしまう可能性があること、現在の利用者負担金の月額 34,800 円が福祉医療の負担上限額によって今後変わりますが、それを 2 万円程度としても 9 万円を超す利用者負担金になりそうなこと、また、重症児・者は児童福祉施設のため歯科診療や成人病診療等は施設外医療に頼らざるを得ないのですが、この医療費が在宅と同様に 3 割自己負担となることなどが危惧されております。

今まで措置制度によって余りにも優遇されて、在宅との均衡を欠いていたのだと言う方もいらっしゃるようですが、これでは子供に飴玉の甘さを教えてから取り上げるような仕打ちではないでしょうか。

また、介護保険制度は、利用者には大変便利な制度で助かっている方も大勢おりますが、一方、福祉はお金で買うものと言う風潮を助長してしまいました。今後、障害者福祉に対する社会的思想がどう変わっていくのかも気になるところです。

全国守る会とともに、成人に達した障害者を一個の独立した人格と認め、その受給している障害者年金の範囲で独立した生計を維持できるような障害者自立支援法としていただけるように運動してまいり所存でおりますので、皆様の御理解と御協力とをお願いいたします。

全国の活動だけに集中いたしておりますと、足元を見失いがちです。子供たちの生活のために、身近な環境や制度を整備していただくことも大事です。みやぎ障害者プランの基本理念である『地域で自分らしい生活を安心して送れる社会』実現のために、社会資本の整備や福祉制度の充実のために宮城県及び県内市町村に様々な要望をしていく必要があります。

重症心身障害児・者は児童福祉法で守られて来ましたので、窓口は県の地域こどもセンターと仙台市の児童相談所です。仙台市以外の各市町村では支援費制度適用以外に直接重症心身障害児・者と接触する機会はありませんでした。特に、入所入園者には会ったこともないのが現実でしょう。まず、各市町村に重症心身障害児・者とその固有のニーズを理解していただくことから始めなければなりません。

そのために、当会では、県内各地域で地域交流懇談会を開催してまいりました。その成果として、仙台と大崎に分会が設立されました。今年は栗原に新分会が設立される予定ですし、間もなく石巻にも準備委員会が立ち上がります。各地域で独自の活発な活動を行なうことにより、私たちの運動に共感

していただきながら、重症心身障害児・者への理解の輪が広がっていくものと確信いたしております。

私たちは思想家であってはなりません。また、重症児・者の命を守りながら日々の生活に追われているばかりでもいけません。重症児・者を一番理解している者として、物言えぬ重症児・者の代弁者となり、社会に重症児・者の人格を理解していただけるよう運動を展開し、保護者同士が励ましあい助け合って、またそれをとおして守る会の基本理念である「もっとも弱いものを一人ももれなく守る」を遵守して全ての人々の幸せを実現していこうとしている実践者の集まりであることを自覚して、変わらぬ団結心とご協力をお願い申し上げます。

御来賓の皆様には、今後一層のご理解と御指導そしてご支援を賜りますようお願い申し上げます、開会に当ってのご挨拶とさせていただきます。

本日は、ありがとうございました。